

専門ワーキング報告

ワーキング報告 - 課題および今後の展開(案)

1. 地域振興ワーキング

水鳥を活用したツアーについて

主な意見・課題

- 2人、3人でも催行可能な仕組みが必要。
- ターゲットに限られるため大々的な展開は難しい。バードウォッチングが本当に好きな人は自分たちで行く。まだそこまでではない人々に、ツアーを通して体験してもらって、好きになってもらうといった、掘り起こしを行うことが重要。
- 少しずつでも確実に取り組みを積み上げていくことが重要。



今後の展開(案)

- ◆ 宿泊客向け体験型のマガンのねぐら入りを見に行くオプションツアーを実施
- ◆ 連携する宿泊施設を増やす
- ◆ 掘り起こしを目的とする
- ◆ ツアーは継続して実施する

ガイドの育成について

主な意見・課題

- ツアーにはガイドが必要であり、ガイド養成をしていくことが必要。
- 出雲大社のガイドの方の中で、水鳥に興味がある方を探したい。
- 冬季の観光対策として、水鳥を活用する狙いもある。参加者に環境への興味も促したい。



今後の展開(案)

- ◆ 水鳥のガイドを養成する講座の開催
- ◆ 出雲大社のガイドの方々を中心に、市民に呼び掛ける。

道の駅の活用について

主な意見・課題

- 国土交通省の所有のライブカメラが道の駅に設置されているが、2台が使われていない。水鳥のライブ映像などを映して、情報提供すると効果的ではないか。
- チラシの配布なども協力する。
- 道の駅のイベントに絡めて、展示なども可能。地道に情報発信をしていくべき。
- 観光客が持ち歩くフリーペーパーへの掲載も効果的。(有料)



今後の展開(案)

- ◆ ライブカメラの活用
- ◆ 展示スペースやフリーペーパーの活用
- ◆ 地道な情報発信を続ける

2. 環境学習ワーキング

主な意見・課題

- 学校はとにかく忙しいため、新しいカリキュラムを追加することは極めて難しい。
- 学校・地域双方に対して水鳥やエコネットの認知度や関心度を高める努力が必要。
- 既存のプログラムを活かし、10分でも一单元でも、水鳥などのプログラムをどう入れ込むかを具体的に提案することが求められる。
- 学校を受け入れる側も現状では限界があるので、施設連携が必要。



今後の展開(案)

- ◆ 先進事例の視察 →西小の取組みなどの視察
- ◆ コーディネーターによる学校教育との連携
→教育現場を理解している方々と学校教育との連携を検討
- ◆ 学習施設同士の連携 →受け皿としての学習施設の情報共有、連携など

3. 農地環境ワーキング

主な意見・課題

- 紹介のあった環境改善の取り組みについては技術的に不可能というものはない。問題は、いかにしてこの取り組みに参加する農業者を増やしていくかだと考える。
 - 需要の見通しがしっかり立てば、参加する農業者は増えると思う。環境に優しい農法で栽培したコメを集め、ラベルを貼り、流通させる体制が必要。
 - 栽培の基準を定めた上で、認証する体制も必要。個別の農業者では信頼性に問題が生じるため難しい。



今後の展開(案)

- ◆ 認証機関の特定に向けた検討
- ◆ 需要の開拓に向けた検討・提案(圏域の宿泊施設や飲食店、学校給食での提供可能性について検討)
- ◆ モデル圃場を定めた上での農業者への啓発

1. 地域振興ワーキングの開催について

(1). 概要

2018年11月9日に、大型水鳥類を活用したツアー等の地域振興に関して、観光の分野で活動している方々に参加いただき、意見交換を行った。

(敬称略)

日時	2018年11月9日(金) 13:30～15:30	
場所	国土交通省 出雲河川事務所 1階会議室	
出席者	神門通り甦りの会 代表	田邊 達也
	道の駅 湯の川 駅長	金築 豊
	(一社)出雲観光協会 事務局次長	斉藤 謙一
	エピオネイチャーガイドオフィス 代表	池田 友紀
	出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
内容	水鳥を活用した観光ツアーについて	

昨年度のツアー概要

- ◆名称 野鳥の楽園観察会ツアー
- ◆目的 一般を対象とした着地型旅行の実践
- ◆日時 2018年2月24日(土)
12:00～19:25
- ◆場所 出雲市 斐伊川河口周辺、雲南市
- ◆観察水鳥 マガン、コウノトリ、カモ類
- ◆旅行代金 8,900円(税込)
- ◆参加者 13名



昨年度の大型水鳥ツアー参加者の感想・意見

感想

- なかなかできない体験だと思った。
- ドドーンという羽音はとても感動した。貴重な資源。ねぐら入りメインになると思う。
- 食事時に緊張感があった。もっとざっくばらんな雰囲気でも食べられるとよかった。
- 日々気が付かないことを教えてもらえる大人の修学旅行というイメージ。
- ガイドからは、熱い想いが伝わってきてよかった。
- インバウンドの素材としてもよい。
- 値段設定は高いと感じた。個人差はあると思うが、少し興味があるくらいのお客様であれば、お食事代+αくらいの感覚がよいと思う。3000円でも高いかもしれない。
- もっと短いポイント的なツアーの方が良いと思った。

改善点

- ちょっと関心がある方をターゲットにしたい。
- ツアーは観光協会が主催すると、少ない人数で実施できる。
- 12月～3月は集客が難しい。全国的になかなか動かない。プロモーション効果は小さい。
- 水鳥ともう一つ楽しめる何かセットになっているとよい。例えば、野鳥や宍道湖にちなんだ食事や体験。寒い時期なので温泉などでもよい。
- 複数箇所見て回らなくても、ポイントでいい。見られるだけで満足する。
- ガイドは必要。予備知識や、専門的なことを教えてもらいたい。
- 見られるかどうか分からない種よりも、珍しさは減っても絶対にみられる種の方がよい。
- 生態だけでなく、生活・文化などのストーリーが肉付けできるとよい。実物を見て、さらにもう一つ情報をプラスできると、特別なものになり満足度が高くなる。
- 水鳥のために県外から来るというよりは、出雲観光に来て、もう一つ何かという位置づけの企画と値段設定ができるとよい。
- 一日の企画よりも、宿泊施設と提携し、一定期間、短いツアーを続けるのはどうか。
- 一泊2-3万円くらいの、年齢層も少し高めな宿泊施設と提携するのがよいか。
- 出雲に宿泊しているお客様を対象に、ねぐら入りフライトを見るオプションツアーとして参加してもらうのはどうか。16時半チェックインでその後食事・温泉までの間など。
- 水鳥のことは知らない方がほとんど。情報発信はどんどん行うべき。



昨年度のツアー参加者の感想や意見から、今年度以降の水鳥を活用した観光ツアーの方向性について議論した。



1. 地域振興ワーキングの開催について

(2) 出席委員の意見と今後の展開(案)

水鳥を活用したツアーについて

◇主な意見

- 出雲観光協会は地域限定の旅行業を取得した。独自ツアーの開催が可能。
- 2人、3人でも催行可能な仕組みが必要。
- 宿泊するお客様を対象にしたツアーのニーズは多いと思う。
- 「マガンのねぐら入り」が迫力がありポイントで見せるのが良い。
- 費用は約2千円程度か。
- ターゲットに限られるため大々的な展開は難しい。
- バードウォッチングが本当に好きな人は自分たちで行く。まだそこまでではない人々に、ツアーを通して体験してもらって、好きになってもらうといった、掘り起こしを行うことが重要。
- 「築地松」もみてみたい。ここしかないものを。
- 観光協会としては歩みを止めることなく、継続してツアーを実施していく。
- 少しずつでも確実に取り組みを積み上げていくことが重要。



◇今後の展開(案)

- ◆ 宿泊客向け体験型のマガンのねぐら入りを見に行くオプションツアーを実施
- ◆ 連携する宿泊施設を増やす
- ◆ 掘り起こしを目的とする
- ◆ ツアーは継続して実施する

日本三美人の湯
湯の川温泉・湯宿草菴と冬のみ現れる自然の風景
鳥たちのねぐら入りフライト、観察プラン

旅行代金
1人様：39,000円～40,000円
お土産は含まれるものあり。前払代金(宿泊費) 17,165円(夕食1回)。
交通費(往來の場合もあり)、旅行代金別添付。案内料。

日程
平成31年2月 2日①～3日②
9日③～10日④
23日⑤～24日⑥

行程
湯宿草菴 → 伊予川河口付近の水鳥観察スポット → 湯宿草菴(的)
17:00 17:15 18:20

特徴
● 観光客向けに2名、3名を単位としてお申し込み下さい。
● 予約：出発日の前日までにお申し込み下さい。
● 乗車：同行しません。現地乗車がご案内します。旅行代金は当日乗車に料金は含まれません。

設備
● 湯宿草菴(水鳥観察ツアー)
大浴場について、半浴(裸)・露天(裸)を併用する場合は、前日の16:00まで予約の取得が必要です。またお申し込みの際は、水鳥観察ツアーの代金を申し込んだお部屋でお申し込みください。

お問い合わせ
出雲観光協会 0853-53-2112

出雲観光協会が今年度開催する水鳥観光ツアー(チラシ)

ガイドの育成について

◇主な意見

- 水鳥の居場所の下見など、ツアーにはガイドが必要。
- ガイド養成をしていくことが必要。
- 出雲大社のガイドの方の中で、水鳥に興味がある方を探したい。
- 高い価格で専門的なガイドを行う場合と、ガイド養成や普及啓発、地域浸透を兼ねて低価格で行うか、コンセプト次第だと思う。
- 冬季の観光対策として、水鳥を活用する狙いもある。参加者に環境への興味も促したい。



◇今後の展開(案)

- ◆ 水鳥のガイドを養成する講座の開催
- ◆ 出雲大社のガイドの方々を中心に、市民に呼び掛ける。

佐渡市による「トキガイド」の養成講座。計9回の講座と、トキガイド認定試験を開催。現在約120名が登録されている。

平成30年度 トキガイド養成講座 受講生募集

平成31年1月15日(日)募集締切

講座番号	開催日	時間	講座名(予定)	講師名
1	平成31年1月22日	18:30~20:00	トキの野生復帰の取組みについて	環境省自然環境政策推進部自然環境課 佐藤 賢生
2	1月27日	8:00~10:00	佐渡の鳥について	日本野鳥の会佐渡支部 佐藤 正樹
3	1月27日	10:30~12:00	トキの生態について	トキ研究会 佐藤 正樹
4	1月31日	18:30~20:00	佐渡の植物について	新潟大学 佐藤 正樹
5	2月 5日	18:30~20:00	朱鷺発見の跡 一川口地区「佐渡の鳥」を中心に	新潟大学 佐藤 正樹
6	2月 8日	18:30~20:00	多様な生きもの生むむ田んぼ	佐渡市 佐藤 正樹
7	2月14日	18:30~20:00	佐渡の自然について	佐渡市 佐藤 正樹
8	2月19日	18:30~20:00	トキのエサ確保の取組について	新潟大学 佐藤 正樹
9	2月26日	18:30~20:00	トキガイドのための実習講座	佐渡市 佐藤 正樹
試験	3月17日	14:30~16:30	トキガイド認定試験(トキ博士認定試験)	佐渡市 佐藤 正樹

申込方法
● 講座全9回中5回以上出席
● 認定試験会場(佐渡市新穂上1101-1)へお申し込みください。
● 申込料(トキ博士認定試験) 500円(税込)
● 申込料(トキガイド認定試験) 500円(税込)

申込用紙
平成30年12月25日(日)～平成31年1月15日(日)必着

道の駅の活用について

◇主な意見

- 国土交通省の所有のライブカメラが道の駅に設置されているが、2台が使われていない。水鳥のライブ映像などを映して、情報提供すると効果的ではないか。県外からのお客さんが良く訪れる。
- チラシの配布なども協力する。
- 道の駅のイベントに絡めて、展示なども可能。地道に情報発信をしていくべき。
- 道の駅発着の観察ツアーもよい。
- 観光客が持ち歩くフリーペーパーへの掲載も効果的。(有料)



◇今後の展開(案)

- ◆ ライブカメラの活用
- ◆ 展示スペースやフリーペーパーの活用
- ◆ 地道な情報発信を続ける



道の駅湯の川のライブカメラ

2. 環境学習ワーキングの開催について

(1). 概要

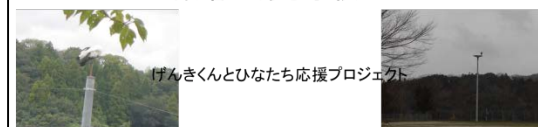
2018年12月14日に、大型水鳥類を活用した環境学習に関して、教育の分野で活動している方々に参加いただき、意見交換を行った。

(敬称略)

日時	2018年12月14日(金) 13:30～15:30		
場所	宍道湖グリーンパーク会議室		
出席者	NPO法人 国際交流フラワー21 理事長	青木 広幸	
	出雲市教育委員会 教育政策課 課長補佐	野坂 俊之	
	NPO法人 いずも朱鷺21 理事長	原田 孟	
	(公財)ホシザキグリーン財団ホシザキ野生生物研究所 所長	森 茂晃	
	雲南市立 西小学校 校長	和田 邦子	
	出雲河川事務所		
	(公財)日本生態系協会		
内容	大型水鳥類とエコネット事業を活用した環境学習の展開について		



「コウノトリ」を教材とする
西小学校の取組
～世界で二番目のコウノトリ
人工巣塔のある学校～



げんきくんとひなたち応援プロジェクト

(2)出席委員の意見と、今後の課題及び展開(案)

「トキ学習コーナー」の取り組み紹介

- トキの近似種を見せることで非公開のトキを身近に感じてもらう工夫をしている。
- トキはこれまで実物が見られなかったため、関心度も低かったと感じている。
- トキの実物を見ることができるトキ観察施設を活用して環境学習を進めたい。

「宍道湖グリーンパーク」の取り組み紹介

- 幼稚園・保育所向け、小学校向けのそれぞれのプログラムを公開・PRしている。
- 利用者は企画展やプログラムの公開により少しずつ増えている。
- 大型水鳥は広範囲で移動するため、プログラムに組み入れにくい。

西小学校のコウノトリを教材とする取り組み紹介

- カリキュラムの内容を増やすことへの抵抗や、温度差は常にある。
- それを埋めるために、様々な仕掛けを続けてきた。(実物を見せる、情報公開など)
- 子どもたちが変わってきて行動に移すようになる。
- 地域は子どもたちの行動をみて変わる。
- 環境教育の目的はコウノトリの保護ではなく、その先の生態系や地域学習にある。コウノトリというのは、素晴らしい教材だと感じている。

◇主な課題・意見

- 学校はとにかく忙しいため、新しいカリキュラムを追加することは極めて難しい。
- 学校・地域双方に対して水鳥やエコネットの認知度や関心度を高める努力が必要。
- 既存のプログラムを活かし、10分でも一単位でも、水鳥などのプログラムをどう入れ込むかを具体的に提案することが求められる。
- 学校を受け入れる側も現状では限界があるので、施設連携が必要。



◇今後の展開(案)

- ◆ 先進事例の視察 →西小の取組みなどの視察
- ◆ コーディネーターによる学校教育との連携 →教育現場を理解している方々と学校教育との連携を検討
- ◆ 学習施設同士の連携 →受け皿としての学習施設の情報共有、連携など

当該地域の主な環境学習施設

- 宍道湖グリーンパーク (島根県出雲市)
- 宍道湖自然館ゴビウス (島根県出雲市)
- トキ学習コーナー (島根県出雲市)
- トキ観察舎(島根県出雲市)
- 島根県立三瓶自然館サヒメル (島根県大田市)
- 米子水鳥公園 (鳥取県米子市)
- 奥出雲多根自然博物館 (鳥取県奥出雲町)

3. 農地環境ワーキングの開催について

(1). 概要

2018年(平成30年)11月27日に、環境保全型農業やその普及に取り組まれている方々に参加いただき、現地視察とともに、流域の農業環境の改善に向けた手法等について意見交換を行った。

(敬称略)

日時	2018年(平成30年)11月27日(金) 現地視察13:45~16:20 室内会議16:20~17:50	
場所	現地視察(雲南市~出雲市各所)、および、 宍道湖グリーンパーク会議室	
出席者	特定非営利法人 未来守りネットワーク 理事長	奥森 隆夫
	農事組合法人 ファーム宇賀荘 代表理事組合長	河津 幸榮
	農事組合法人 ゆとりの里 下古志ファーム13 副代表理事	田淵 肇
	島根県農業技術センター 栽培研究部長	月森 弘
	赤川ホタル保存会 会長	松田 勉
	島根大学 教授	松本 慎吾
	出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
内容	現地視察:農地において大型水鳥類の生息環境改善に求められる環境と、望まれる取り組みについて 室内会議:(仮称)エコネット米の考え方について	



(2)出席委員の意見と今後の展開(案)

現地視察:大型水鳥類の生息に資する水田環境づくり

コウノトリが採食地として利用している水田、ハクチョウ類、ガン類が採食地として利用している水田を視察。

大型水鳥の食物資源を保全する、または増やすためのポイントと、そのために農業者が取り組んでいることについて理解を深めた。



室内会議:(仮称)エコネット米の展開上の課題

◇主な課題・意見

- 紹介のあった環境改善の取り組みについては技術的に不可能というものは無い。問題は、いかにしてこの取り組みに参加する農業者を増やしていくかだと考える。
 - 需要の見通しがしっかり立てば、参加する農業者は増えると思う。個々の農業者では生産から販売までを担うのは大変で、規模を大きくすることも難しい。環境に優しい農法で栽培したコメを集め、ラベルを貼り、流通させる体制が必要。
 - 売る側に立った場合でも、ある程度まとまった量が必要になる。
 - 栽培の基準を定めた上で、認証する体制も必要。個別の農業者では信頼性に問題が生じるため難しい。



◇今後の展開(案)

- ◆ 認証機関の特定に向けた検討
- ◆ 需要の開拓に向けた検討・提案(圏域の宿泊施設や飲食店、学校給食での提供可能性について検討)
- ◆ モデル圃場を定めた上での農業者への啓発

参考:道の駅の新たな活用事例「Trip-Base道の駅プロジェクト」

2018年11月、積水ハウス株式会社とマリオット・インターナショナルは、国内の地方公共団体と連携し、「道の駅」をハブにした、「地域の魅力を渡り歩く旅」を提案する地方創生事業「Trip Base(トリップベース:宿泊拠点) 道の駅プロジェクト」を展開すると発表した。

- これまで休憩・通過地点だった道の駅に宿泊拠点としての機能を付加、地域観光の中核(ハブ)に位置付け。観光資源のネットワーク化・集客ポテンシャルを最大限に引き出し地域振興につなげ、地域の魅力を渡り歩く旅を提案・提供する地方創生事業。
- 全国各地で人気の「道の駅」に隣接したホテルを、自動車やバイク、自転車などで渡り歩き、地域と人とのつながりを感じることを通じて旅行者の満足度を高めることを目指す。
- 第一段階として、2020年秋以降に5府県15か所でロードサイド型ホテルをオープンし、その後順次全国に展開していく予定。



展開予定の宿泊施設「フェアフィールド・バイ・マリオット」外観イメージ